

〔宮城寛諄議員 登壇〕

○11番 宮城寛諄君 おはようございます。本日の一番バッターで質問したいと思っております。新しい町長、赤嶺正之町長になって初めての一般質問でちょっと緊張して震えが来ています。同級生に質問するわけですから、前向きな答弁をよろしくお願いします。

1つ目は、幼小中学校への空調設備、クーラーの設置について計画はどうなっているかということですが、いよいよこのクーラーの、要するに空調設備が幼稚園、小学校、中学校と、全てに設置されるということを当局側がそういう方向性で動いたと。それもまた平成32年度までにはやるんだと、こういう答弁を昨年12月の私の一般質問でもそういうふうにお答えしてもらいました。本当に子供たちが、そして町民の皆さん方、PTAの皆さん方が要望した空調設備の設置について実現するということが目に見えてきましたので、大変うれしく思いますし、また計画どおり進んでほしいということで質問をさせていただきます。新しいハイさいよ一さんのほうでもこの空調設備について書かれています。幼稚園については実施計画、整備工事として平成30年度から31年、32年、各幼稚園何教室ずつというふうになっていますし、小学校でも中学校でも設計委託料が平成30年度に組まれていて、平成31年度が小学校、32年度が中学校というふうな、こういう事業費の内訳も書かれています。それはそのとおりやってほしいなど。今年度は予算がちゃんとついていますからそのとおりできるんでしょうけれども、次年度また、そういう計画だけでも、それはまたできないと、ちょっとストップということにならないようにしてほしいと思って、そのことでちゃんとその辺ができるのかどうかということ町長の何と言いますか、やるんだという決意が欲しいなと思って、新たに町長に就任したわけですから、その辺をお聞きしたいと思ってそういう質問をいたしました。(1)には、幼稚園、今年度中に空調機の設置が完了するかどうか。それから(2)には、小中学校、平成32年度までに完了できる計画となっているのかどうか。それからもう1つは、平成32年度までという計画ですが、その中で前倒しでもできないのかどうか。平成32年度と言わずに31年度までとか、そういう意味での(3)の急ぐべきではないかという質問であります。

それから2点目に、町長の選挙公約を問うということで、4月に選挙が行われたわけですが、そういう中で特にこども医療費については、中学校卒業までと実現していますけれども、高校卒業までの医療費の無料化を公約に掲げていましたので、その実施についてどういうふうな計画で行っていくのかということをお聞きしたいと思います。それから子供の医療費が無料化で窓口での支払いもなしと、現物給付というふうになっていますけれども、ただ重度心身障害者の医療費窓口の無料化はできていないと、これは制度が違うということもあってと思いますけれども、しかし、障害者の皆さん方が窓口の無料化はまだできていないと。それはどうしてなのか、そして今後どういうふうやっていくのか。その点をお聞きしたいと思います。

それから3点目にシルバー人材センターの設立ということですが、これも何度も質問してきましたが、大体がこれまで需要と供給の問題、それから財政の問題などが理由に挙げられてきてきておりません。それで前の城間町長にもお聞きしたんですけども、城間前町長はこういうことをおっしゃっていたことがあるんですね。これは私たち大城 毅議員と2人で、これは大分前の話ですけども、南風原町議会日本共産党議員団としての予算編成に当たっての申し入れを2006年に行ったことがあるんです。そのときの町長からの答弁書です。ちゃんと町長の印鑑も押して答弁されているんですけども、その中でシルバー人材センターに向けての予算措置をしてくださいということで質問いたしましたら、シルバー人材センターの設立によってふえ続ける高齢者に対する就業機会を提供することは、高齢者の生きがい対策の1つとしても重要なこととして考えていますと。つまりシルバー人材センターについては、それは大事だと。だけでも需要と供給の問題とかお金の問題云々で…、要するに重要なことと考えています。しかし、現在の社会情勢や町の財政状況から照らして受託事業件数や管理運営費に不安要素がありますので、今のところセンターの設立については考えていませんと。そういうふうな城間前町長の考え方でした。シルバー人材センターについてはいいことではあるんですけども、財政問題に不安要素があるんだということがありました。ところで、赤嶺正之町長、このシルバー人材センターについて、町長はどういうふうなお考えなのか、その点をお聞きしたいと思います。

(1)ですね。それで(2)は、済みません、これはちょっと「高齢者率」ではなくて「高齢化率」ですね、間違っています。済みません。高齢化率が上がってきている中で、例えば年金が削減されるとかいろいろお年寄りの皆さん方の生活が大変厳しい状況ができて、こういう中でシルバー人材センターを設立することによって高齢者の社会参加で生

6月19日（第3号）一般質問

きがづくり、それとまた収入も得られるということを考えますと、シルバー人材センターの設立は必要ではないかと考えます。いかがお考えでしょうか、その点をお聞きしたいと思います。

それから4点目に、町内小中学校、それから公共施設のトイレの洋式化はどうなっているかということの質問です。小中学校のトイレの洋式化は何度かここでも取り上げられてきて、洋式化に向けてやっておられるようですけれども、現在、どれほど進んでいるのかをお尋ねしたいと思います。それから公共施設のトイレの洋式化はどうでしょうかということです。いろんな公園がありますし、それから運動場、体育センターとかふれあい公園とかが南風原町内にはたくさんあります。そういうところの洋式化、その点はいかがでしょうということの質問です。以上、よろしくお願ひします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 赤嶺正之君 宮城寛諄議員のご質問にお答えいたします。まず質問事項1番目の幼小中学校への空調機（クーラー）の設置計画についてでございますけれども、詳細につきましては、副町長あるいはまた教育長から答弁をさせていただきますけれども、私といたしましては、先ほど寛諄議員のご質問の中にございましたように、ようやくここまで来たかという感じでございます。寛諄議員を初め、あるいはまた赤嶺奈津江議員、お二人が常に子供たちの環境整備のことを取り上げていただきまして、やはりこれは何とかしないといけないということがございまして、このたびの計画に至ったということでは改めてまたお二人の議員にお礼を申し上げたいと考えております。先ほど申し上げましたように、詳細につきましては、副町長あるいは教育長から答弁をさせていただきます。

2番目の町長の選挙公約を問うのご質問でございますけれども、（1）でございますが、高校卒業までの医療費の無料化につきましては、県内で既に実施をしている自治体から情報を集め、分析をしているところでございます。その結果を踏まえて計画を立てていく予定でございます。（2）の重度心身障がい児の医療費窓口無料化についてのご質問でございますけれども、この件に関しましては、私、選挙公約で具体的に明記はいたしておりませんが、トータルといたしまして、福祉のまちづくりというところで児童、高齢者、障害者の皆さんの福祉の充実に取り組んでいくということを掲げてございまして、この件に関しましても議員の方々がご承知のとおり、城間前町長が窓口無料化について県に要望しておりますので、私も引き続き県のほうに要望してまいりたいと考えております。

以降の質問事項、3番目、4番目に関しましても副町長、教育長から答弁をさせていただきます。以上です。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 お答えいたします。まず、大きな質問項目1点目です。幼小中学校への空調機の設置計画ということですが、最初に幼稚園についてです。これにつきましては4幼稚園への設置完了は、平成32年度を予定しているということです。（2）でございます。小中学校に関してですが、小中学校に関しても完了は平成32年度を予定しているということです。（3）の空調機の設置を急ぐべきではないかということでございますが、空調機の設置には教室等の一部改修や学校の諸活動との兼ね合いもあることから、平成32年度を計画しておりますが、国の補助金、それから本町の財政事情、そういったもろもろの条件が合えば前倒ししていくという考え方も持っております。

続きまして、大きな質問の4番目、小中学校と公共施設のトイレの洋式化でございます。小中学校のトイレの洋式化は、小学校が67%、中学校が47.3%となっております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目のシルバー人材センターの設置を。（1）と（2）については関連しますので一括してお答えします。町の人材を活用する事業としては、まずは町社協が実施しているファミリーサポートセンター事業、そしてまちづくりサポートセンター事業があります。町が実施している事業としましては人材サポートセンター事業があります。この3つの事業を充実させることで高齢者の生きがいにづくりにもつなげると考えております。

質問事項4点目の町内小中学校、公共施設のトイレの洋式化の（2）についてお答えします。ほぼ全施設において洋式化されておりますが、一部の施設においては利用者の要望により和式を残しております。以上であります。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 一問一答方式でやっていきたいと思ひます。幼稚園について、平成

6月19日（第3号）一般質問

30年度から32年度までで終わるといふ、このハイさいよーさんに掲げている、そのとおりだということですね。是非それをやってほしいんですけども、ただ全体的に、クーラーについて、全体的な話としてですけども、これまでもクーラーについて、実は各小中学校から特に暑い教室を校長先生に上げてもらって、1校ずつやっていくんだということをお聞きして、皆さん方、町長も教育長のころ答えられていたんですけども、じゃあ、1校ずつやっていくのかなと思ったら、実施計画にもものっていないとかそういうことも実はあったんですけども、ですから私は、こういうふうには予定ちゃんと、今年度にも予算をつけてそういうふうにはやるんだというふうになっていきますけれども、例えば今年度は4幼稚園で8教室できるんだと、次年度はまた6教室なんだということをお聞きして、予算のほうでは書かれているんです。本当にそのとおりできるのかなというのが心配。確実にことしは、この点はやるんだということはお聞きして、それはできるんでしょう、ちゃんと予算を組んでいるわけですから。それから小中学校についても設計ですか、それに委託料を組んであるわけですから、それはできるんでしょう。その後、実際にやっていくために皆さん方はその予算というのは、今新しい実施計画にはちゃんとのせてあるのか、平成32年度までにその予算を幾らというふうにする。その辺がちょっと心配なものですから、途中でちょっと財政状況が悪くなったというふうにならないかなというのが心配で、その辺は優先してやってほしいと思います。それともう一つは、早目にやってくれというところの答弁で教室等の一部改修云々書いてありますけれども、南風原町はこれまでオープン教室ということをやってきました。それがよしとしてやってきたわけですけども、しかしクーラーをつけるには、教室全体を冷やさない、オープンになっているわけですから、なかなか難しいと。だからそれらの改修も必要、そのことだと思います。この答弁は、それがあって前倒しはできないんだということだと思いますけれども、そういうこともあって、そういう改修も含めて大丈夫なのかという心配もあるわけですね。実際に年度年度で改修工事がどれくらいかかるのかもよくわかりませんし、これからということですから、その辺は皆さん方の構えとして、覚悟として、どういうふうにはやっていくという、これはもうはっきり平成32年度までやっていきますということをお聞きして、私は捉えてよろしいんでしょうか、その点をお伺いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 答えします。計画どおりしっかりと進めてまいりたいと思います。先ほどの質問にありました事項については、南風原町の中期財政計画のほうにもその計画を充てております。ご心配の計画が、延びる延びないの部分についてもじっくりこちらのほうで検討して、そういうことがないようにこちらのほうで進めてまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 是非そのことを実施してほしいと思います。きのうの質問の中でも子供たちとの約束なので、その辺はちゃんとやっていくということをお聞きして、これは子供たちとの約束を是非守ってほしいと思いますし、私はそれよりも子供たちが勉強できる環境を整えてあげるといふのは大人の仕事です、行政の仕事です。子供たちと約束をする前に、そういう環境を整えていくというのがその前にはないといけないと思っております。これまでが30度を超える教室で授業をさせてきたというのが、大変な落ち度だと思っておりますし、いろいろ事情はあったんでしょうけれども、そういう環境を整えてあげると、これは絶対的に行政がやることですので、それを是非考えてやってほしいと思います。その点はそれで終わりたいと思います。

あと高校までの医療費の無料化は他の市町村を見ながらということですが、他の市町村を見て検討することも結構ですけども、ただ南風原町はこれまでも他の市町村を心がけて見たかどうかわかりませんが、その医療費については先進的な役割をして、国からのペナルティーも城間前町長は受けて立つと。それくらい子供たちの医療費の無料化、要するに貧困対策もひとつあるんですけども、覚悟してその辺は先頭を切ってやってきたということがあるんです。ですから、そういう立場に立てば18歳まで、例えば国民健康保険手帳も親が滞納しているところがあったにしても、子供たちには健康保険手帳を渡すというふうな方向が、今全国ではそういう方向です。子供たちに医者にかかれない、こういう状態をつくらないということがもとにあるわけですね。ですから高校までの医療費の無料化についても、私は早急に南風原町が先陣を切ってでも、もちろん先にやっている市町村もありますけれども、やってほしいというふうには思いますし、また重度心身障害児の皆さん方にも窓口無料化を是非やってほしい。今度新しく償還払いから自動償還払いになったことは一歩前進だということですけども、しかしそれでもまだ窓口で支払いをしなければ医者にかかれないということですので、その辺は県の条例も見せてもらいたいです。

6月19日（第3号）一般質問

れども、これで特に償還方式をしなければならないという文章はなかったんですけれども、多分3条の助成をした場合に補助しますよと、この文章ではないのかと思いますけれども、しかしながら子供たちに障害を持っている皆さん方は償還方式ではないですと。それではちょっと酷じゃないですか。その辺はもっともっと前に進める形で、皆さん方、取り組んだらどうですか、その点をお伺いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えします。まず、こども医療費の高校卒業までの医療費無料化については、先に取り組んでいます自治体の情報というのは、1人当たり大体どれぐらいの財政負担があるのかとか、そのあたりを最新の情報を収集しているところです。現物給付ではないんですが、これは高校までやっているところも現時点で、まだ自動償還払いですので、その辺も含めて情報収集して、本町は高校卒業までの拡大については、当然現物給付での同じような対応になっていきますので、その辺の違い等も加味しながら、しっかり調査研究して取り組んでいきたいと考えています。

あと重度心身障害者の医療費助成に関しては、我々こども医療費助成の現物給付に当たって、医療費助成には3つの医療費助成がございまして、母子父子家庭の医療費助成もあります。この3つの医療費助成について同時にやりたいということで県には申し上げましたが、残念ながら、ご承知のとおりこども医療費助成についても長い時間かかりました。この重度心身障害者医療費助成についても、まだ県のほうについては、現物給付の見通しはございません。同じように母子父子家庭についてもないと。この重度心身障害者医療費助成の要綱においては、先ほど議員がおっしゃっていたとおり、第3条の補助対象経費、こちらが県のほうとしましては、市町村が対象者に対して医療費を助成した場合におけるものが対象経費であると。現物給付になると市町村は病院に支払いますので、本人には払っていないということで、それで現物給付は対象外なんだということでございますので、議員おっしゃるとおり我々もこの重度心身障害者の部分について、是非現物給付の導入に向けて取り組んでもらいたいということは、これからは要望していきます。できましたら、県議会のほうでもこのあたりも是非取り上げていただけたらと思います。以上でございます。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 高校卒業までの医療費の助成と、それから重度心身障害者、母子父子家庭のこともおっしゃっていましたが、そこも含めて、ちょっと県の条例の関係で難しいということですが、是非これは、何というんですか、子供たちに区別をつけたらおかしいと思うんですね。その辺は一緒になってやるべきだと、私はそういうふうに思っています。条例がちょっとネックになっていますけれども、城間俊安前町長はそれを乗り越えて現物給付をやったわけですが、今度の赤嶺町長はこの辺は、そこを踏み越えてやっていくという決意はございませんか。それともう一つは、せめて任期中にこの辺は解決するというふうに私は是非やってほしいと思いますけれども、どうですか、その辺は。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えします。前町長、国のペナルティーは受けて立つとおっしゃって、そしてそのとおりにそれに向けて取り組んでいきました。県のほうとは直接町長みずから伺いまして、県知事にも要請しまして、これまでのこの経緯は十分ご承知と思いますが、そのような形になっていって、県の要綱の改正になったわけです。現時点ではこの重度心身障害者医療費も町が現物給付にすると、県の補助金を受けられません。プラスまたその分の国保の部分についてもペナルティーもかかってきます。一番、とにかく大きいのは県の補助金を受けられなくなるということですから、そこは受けて立つわけにはいきませんので、引き続き要請していって、県の理解を得たいということでございます。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 今度通告していないんですけれども、その受けられなくなる額というのは大体ご存じですか。以前の、こども医療費のあれはたしか6,000万円ぐらいだったのかなというふうに記憶、思うんですけれども、もしわかるんでしたら教えてもらえませんか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 この重度心身障害者の医療費助成の対象者は障害者手帳を持っておられる方でゼロ歳から大人までいらっしゃいます。平成29年度の実績でいいますと649名の方がそういった受給の資格がありまして、県の補助金の対象となる部分で5,100万円余り、この半額が県の補助金となりますので、約2,550万円ぐらいです。町はこの助成については町単費で、県の補助の枠を拡充して単費での補助もしております。その分は金

6月19日（第3号）一般質問

額にしては24万円ほどではあるんですが、この拡充の部分というのが、県の要綱以上に身体障害者手帳の3級プラス療育手帳のB1を持っている方とか、あるいは療育手帳のB1を持っていて障害年金1級を受けている方とか、療育手帳B1のプラス特児の1級を持っている。このような形で町は拡充して補助の対象者を、助成を受けられるようにしておりまして、県内ではそこまで拡充しているのは本町と那覇市だけという状況で、そういう形でやはり福祉のまち南風原ということでそういった部分をこれまで拡充してきてはいますが、いかんせんこれを現物給付にしますと、先ほど申し上げた金額が県から入ってこない状況になりますので、そのあたりはしっかり県のほうに要請していきたいと思っております。

〔宮城寛諄議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前10時33分）

再開（午前10時34分）

○議長 宮城清政君 再開します。11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 今、重度心身障害児の医療費の問題について現物給付できないかということですが、県の条例があつていろいろ難しいと。通告は出さなかったんですけども、先ほど対象者、中学校卒業までどれぐらいいらっしゃるかとお聞きしましたら28名だというふうにおっしゃっていました。それについて少ない人数だと考えていますけれども、その辺も含めて、南風原の子供たち全て現物給付というふうにやってほしいと私は思います。その辺はもう少し、その辺のペナルティーがどれぐらいかかるのか、補助が受けられなくなるのがどれぐらいなのかというのをもう少し綿密に調べて、その辺をできる方向でやってほしい。町長も是非その辺はやってほしいと。子供たちに、どの子供たちもというふうには思います。もちろん医療費の補助をもらっている制度は違うわけですから、それはどこから金が出るか、難しいとは思いますが、しかしながら南風原町の子供たちですので、障害者、母子父子の家庭はちょっと違うんだということがないようにしてほしいと思っておりますけれども、その辺の見解をお聞きします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 議員がおっしゃいますように、確かにこども医療費の、南風原町でのこども医療費助成対象となる年齢の重度心身障害者医療費助成の対象者数は28名という数ではございます。そのあたりのこの部分を現物給付にした場合の県からの得られなくなる交付金の額とか、そのあたりを算出しながら、議員がおっしゃいますように、我々も重度心身障害者医療費助成は現物給付が望ましいというのは同じでありますので、その交付金が受けられなくなる部分も確認しながら、今後検討し、また県にはそのあたりも要請を続けていきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 是非、その辺は現物給付が望ましいという考えのようですので、県にも要請していつて実現するようにやってほしいと思っております。町長が答えないので残念ではありますけれども、是非お願いします。

次のシルバー人材センターのほうに行きたいんですけれども、シルバー人材センターの見解を問うというふうには私は質問したんですけれども、設立の問題と見解と同時に答弁されてしましまして、このシルバー人材センターについて、町長の見解をお聞きしたいと思っております。南風原町でこのシルバー人材センターをつくるのかつからないのかということではなくて、シルバー人材センターがあちこちにありますが、県の連合会もあります。そういうふうにはシルバー人材センターというものは、どういうふうなものか、是非その辺の見解をお聞きしたいと思っております。よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 赤嶺正之君 シルバー人材センターに関するご質問にお答えいたします。見解ということでございますけれども、シルバー人材センターに関しましては私のイメージといえますか、それが2つございまして、1つはこれまでの考え方といえますか、皆さん方もご承知のようなシルバー人材センターですね、既存の。那覇市や西原町にあるシルバー人材センター。もう一つの考え方といたしまして、高齢者の先輩方が退職なさって、まだまあお元気だけれども、何とか自分のこれまで培った長年の知識や経験、技能等が生かせるような場がないかどうかと、そういったふうな考え方もあるわけございまして、それを例えば、今実際やっている学校応援隊はええみたいなボランティア活動ですね、あるいは有償のボランティアでもいいかと思うんですけれども、そういった先輩方のこれまでの経験と知識、技能、そういったものを協働のまちづくりという格好で生かせないかどうか

6月19日（第3号）一般質問

か、それをしっかりとコーディネートする部署があって、福祉あるいは産業、そういったところに生かしていただくと。そういったふうな高齢者の皆さんの生きがいくつくりと言いますか、場づくりにもなるのかなというイメージがございます。ですから私としてはそういった方向にシフトしていきたいんですけども、従来のシルバー人材センターに関しましては、先ほど来、2006年あたりにお答えいたしましたような課題があるということではなかなか踏み切れなかった現状があるというふうに認識をいたしております。以上です。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 町長、今町長がおっしゃったように、1番目と2番目、私はこれを兼ね備えたのがシルバー人材センターだと思っているんですけども、今のシルバー人材センター、これまで培った技術や技能、先輩方の知恵を拝借して、それを活用してほしいという方に与えているわけです。それともう一つは、これまでなかった技術をシルバー人材センターで講習を受けて、新しい技術といいますか、技を磨くと、それを活用するというのもやられているわけです。ですから、今町長がおっしゃったような、そういうものの先輩方を是非集めて、集めてと言ったらおかしい、要するに希望者を募って、その皆さん方がやっていくというのがシルバー人材センターだというふうに私は考えております。これまでも南風原町でいろいろ、ファミリーサポートは子供たちの預かりですけども、あとまちづくりサポートセンター事業とか産業振興とか、畑を利用するとかいろいろやっていますけれども、じゃあこれで十分なのかと、これを充実させながらと言うけれども、どういうふうに充実させてきたのか、これまで。その辺をちょっとお聞きしたいと思えます。この3つのことで南風原町の町民の皆さん方からこういうことをしてほしいという要望があったときに、例えば庭の草を刈ってほしいとか、木の剪定とか、車庫をつくるとか、壊れたところを直してほしいとか、そういうこともあります。そういう事業もやっていますし、それからシルバー人材センターをつくれれば町の委託された今の社会福祉センターとか、今、産業振興課の中にあたりするのかな、そういうところとか、サポートはこども課でやっているのかな、そういうこととかではなくて、法人としてやれば新たな事業もできてきますし、どんどん広がっていくというふうに私は思います。どうですか、現状、この3つの事業でどのように町民のニーズに答えているのか、お答えをお願いします。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 では説明いたします。議員のおっしゃるとおりシルバー人材センターの取り扱う仕事は、主に清掃、除草、剪定、公園等の管理や家庭の援助サービス、送迎等、また子育てサービスがあります。清掃とか剪定、公園等の管理については、現在、町のほうで高齢者を雇用し、維持管理を行っております。また庭の手入れや家事の援助サービスなど送迎関係についてはまちづくりサポートセンターにて業務を行っております。子育てサービスセンターについてはファミリーサポートセンターにて同様な業務を行っております。そのような状況です。以上です。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 これまでの資料を見せてもらったんですけども、ファミリーサポートセンターというよりも、まちづくりサポートセンター、今活動実績、平成29年374人というふうになっています。それでこの皆さん方が活動実績374人というのは、多分件数であって、累積ですよ。何名でやっているということと違いますよね。ここに何名参加しているかということとは違いますよね。この辺をちょっとお聞きしたいと思えます。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 まちづくりサポートセンターとファミリーサポートセンターについては民生部で所管しておりますのでお答えします。まちづくりサポートセンターにつきましては、平成29年度、活動件数のほうは先ほど議員がおっしゃっていたその件数で、このまちづくりサポートセンターに登録されている方ですね、これの提供会員、要するに私はこういうものができますからというふうにして、いろんな技術が、あるいはお手伝いを提供できる会員が、平成29年度は124人、そのうち60歳以上の方が60人いらっしゃいます。仕事をお願いする方、依頼会員も登録されておまして、その依頼会員も毎年ふえています。平成29年は150人、そのうち60歳以上が111人と。合計しますと284人の方がこのまちづくりサポートセンターにかかわり、半数以上の174人が60歳以上という状況でございまして。それからファミリーサポートセンターにおきましては、提供会員が90人の登録がいらっしゃいまして、そのうちの40人が60歳以上の方となっております。60歳以上の高齢者の方々におかれましても、このような形でまちづくりサポートあるいはファミリーサポートという形でいろいろかかわっていただいているという状況でございまして。

6月19日（第3号）一般質問

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 このまちづくりサポートについて言えば60人の方が111件の事業をやってきたということですよ。人数としてはそれだけ、60歳以上の方が374となっているけれども、そうじゃないというふうに見ます。それから人材サポートセンターの実績というものもあるんですけれども、新規求人登録者数というのは、これと新規求職登録者数という、この点の意味を教えてくださいませんか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 まず、1点目につきましての374件というのは合計で374の依頼件数があったということです。その依頼されたもの対して、労務、お手伝いしたり剪定したり、そういったことができるということで登録されている方が124名いて、そのうち60名が60歳以上ということでございます。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 ご説明いたします。今、お手元の資料にある新規登録者数122名、新規求職者数が82名が登録してありますけれども、これは登録の累計になっています。今現在、最終的に動いているというか、活動しているのは登録会社数が113社、求人者数が55名、そのうち60歳以上が14名となっています。以上です。

〔宮城寛諄議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前10時49分）

再開（午前10時50分）

○議長 宮城清政君 再開します。11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 まちづくりサポートセンターのほうで374件の仕事があったということだということで、そういうことになるとそれなりの需要はあるというふうに考えてよろしいかと思えます。そういうことであれば、私はこれから高齢化がどんどん上がってきている状況の中で、そういう皆さん方の、先ほど町長もおっしゃっていましたが、会社を辞めてリタイアして、その後の仕事、それだけ培ってきた技術を生かしていくというシルバー人材センターは是非必要だと思います。皆さん方が出した資料かな、南風原町高齢者にかかわる推計というのは、いま、2016年度で高齢化率16%、それで2020年、そのときには20.8%、それから25年度では22.9%、もちろんこれは全国平均よりずっと少ないということですが、それでも南風原町のほうはどんどんふえていくという、高齢者の数が16年度で6,002名から、20年度で8,014名、25年度で9,015名というふうに2,000人とか、その後1,000人とか、今から約3,000人以上ふえていくという。こういう状況の中でやっぱり町長がおっしゃった、皆さん方の技術を生かしていくというこの場が、私はそのまちづくりとかファミリーサポートとか人材サポートセンターと、これは再就職になるんですけれども、そういうところだけでは足りないんじゃないかと思えます。そういう意味ではもう少しほかのところも調べてやってほしいと思えますけれども、今後の高齢者福祉に対する考え方、その辺をお聞きしたいと思えます。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 高齢者の福祉に関するということでございますのでお答えします。本町におきまして、高齢者福祉ということで、今年度も高齢者福祉計画を策定して、いろいろな取り組みを実施しているところでございまして、そういった部分ではしっかりその計画に沿って取り組みを進めていきたいと。今、高齢者が地域で生き生きと活躍して、元気で過ごしていけるための施策としていろいろ取り組んでおりますが、そういった中においても、例えば課題となっている部分は、きのう赤嶺奈津江議員から質問のありました買い物弱者の部分です。これをしっかり我々も何とかいろいろな施策を今後導入して取り組んでいかないといけないというふうに課題として捉えております。ご質問のシルバー人材サポートセンターに関しましては、このまちづくりサポートセンターがそのシルバー人材センターの役割の一部を担えるような形で社協で取り組んでおりまして、このまちづくりサポートセンターの仕組みというのは他の市町村ではないような状況、他の市町村はシルバー人材センターがあるとありますので、ないということで南風原町はこういった事業をやっているわけではございまして、実際このまちづくりサポートセンターに登録して働いている方は、一時的に収入を得たい方にも対応できている状況でもあります。これまで他市町村のシルバー人材センターを調べていっていますが、シルバー人材センターを運営するに当たっては当然受注しなければ運営できないわけでありまして、その受注の6割とか、ほとんど公共からの受託事業でございます。どのような内容かというのと、ごみの収集とか、あるいは道路の清掃、公園の清掃、ほぼその部分でシルバー人材センタ

6月19日（第3号）一般質問

一の運営がどうにか成り立っているという状況。本町の場合はごみ収集に関しましては、これはもう当初から障害福祉の施設のほうに委託をしているわけでございまして、これをシルバーに移すわけにはいかない。それから公園とか道路の清掃でございますが、先ほど産業振興課長からありましたように、すぐやる班というところで町が直接雇用して高齢者の就労の場となっているということでございまして、この2つをシルバー人材センターの運営から、シルバー人材センターのほうに委託できないとなると、シルバー人材センターそのものの運営が相当厳しくなるというのが、我々のこれまでの調査研究からそういう結論に至っております、そのかわりとなる受け皿としてこの3つの事業に取り組んでいるわけでございます。このまちづくりサポートセンターには60人の60歳以上の方が登録して、いろいろ活動してもらっています。これも平成26年には32人だったのが、今はもう倍になっていると。年々登録者数もふえてきておりますので、しっかりこのあたりを広報活動して、どんどん登録会員をふやして高齢者の活躍の場の一つにしたいと考えています。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 運営が厳しいと、厳しくなるということがそれをやっていない大きな理由だと確認しておきたいと思えます。それとまちづくりサポートと公園の草刈り等、それで十分にやっていけるというふうにお考えだということのようです。私はほかの市町村のところももっともっと調査してほしいと。シルバー人材センターをつくることによって独自の事業を展開することができるし、その辺が一番、人材センターのメリットじゃないかというふうに思えます。時間がないので途中でやめますけれども、是非その辺はもう少し他の町村も調査をしてほしいと思えます。

次に公共施設のトイレのほうに移りたいと思えます。この質問を出して公園等を調べてみたんですけども、今、洋式のトイレがあるところは、陸上競技場が男子、女子とも半々ですね。それから山川の体育センターが全て和式というふうなところなんです。それと本部公園の上のほうにあるのが、あれが男女とも1つずつ…、男のほうに1つあったのかな、というふうになっています。その辺は洋式化する予定はあるんですか。

○議長 宮城清政君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 お答えします。公園のトイレについては、陸上競技場周辺が、特に和式トイレが多いです。主にはスタンドですね、その辺に和式トイレが多く存在しております。これは競技者にとってはそれがいいという判断で、当初そういう形でやったと聞いております。必要に応じて、洋式に変えてきておりまして、今トイレ1カ所について、洋式がないというところはございませんので、そういうふうに必要なに応じて変えていきたいということです。そういうふうに変えてきて、現在、これで足りていると考えております。

〔宮城寛諄議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前10時59分）

再開（午前11時00分）

○議長 宮城清政君 再開します。まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 失礼しました。先ほどの答弁のお答えは、都市公園についてのお答えでした。修正します。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 それでは追加で、体育センターの部分ですね、今整備の予定ですけども、今現在、教育のほうでその予定は立てておりませんので、確認を現場のほうにさせて、また検討させていただきたいと思えます。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 確認していないので、今から調べますということなのか、今そう言ったのか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 状況をですね、今現在どういった状況なのか再度確認させていただきたいと思えます。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 是非、洋式化に向けてやってほしいと思えます。新しい公共施設は全部そうですのでよろしくお願ひしたいと思えます。